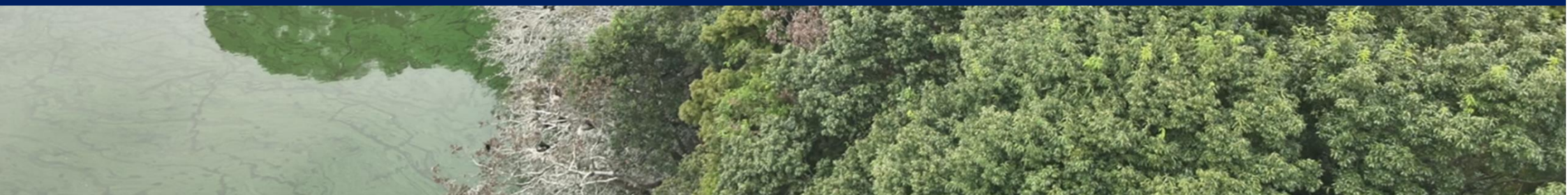




～ 人と鳥の共生を目指して ～
千葉ニュータウンにおける鳥害対策
一級河川利根川水系 戸神川

1



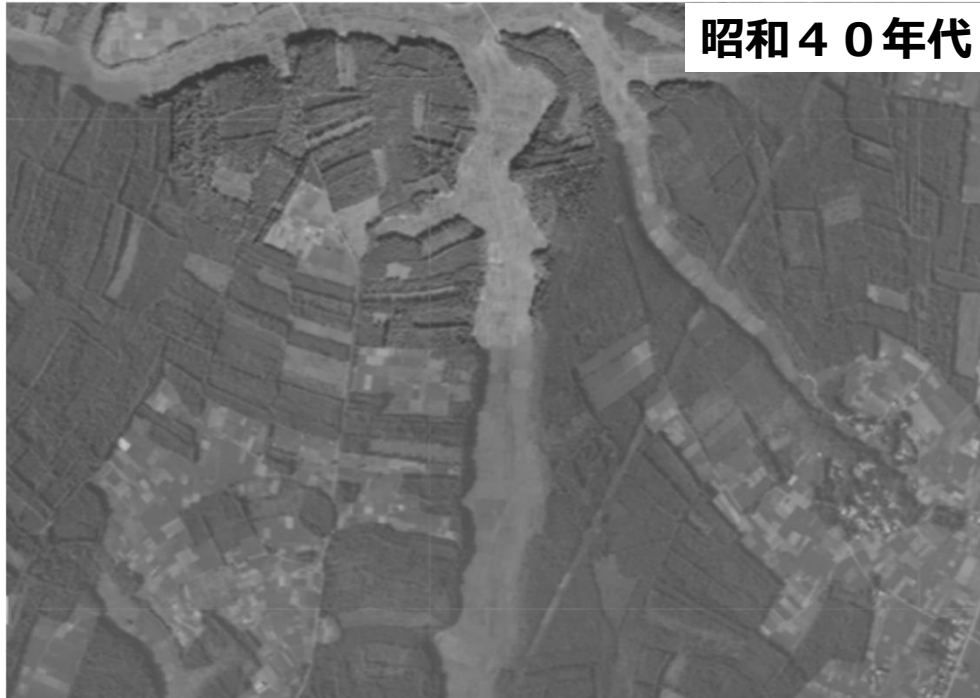
令和6年12月9日
千葉県印旛土木事務所
河川改良課 技師 音 杏奈

千葉ニュータウン



県立 北総花の丘公園
戸神川防災調節池

昭和40年代



現在



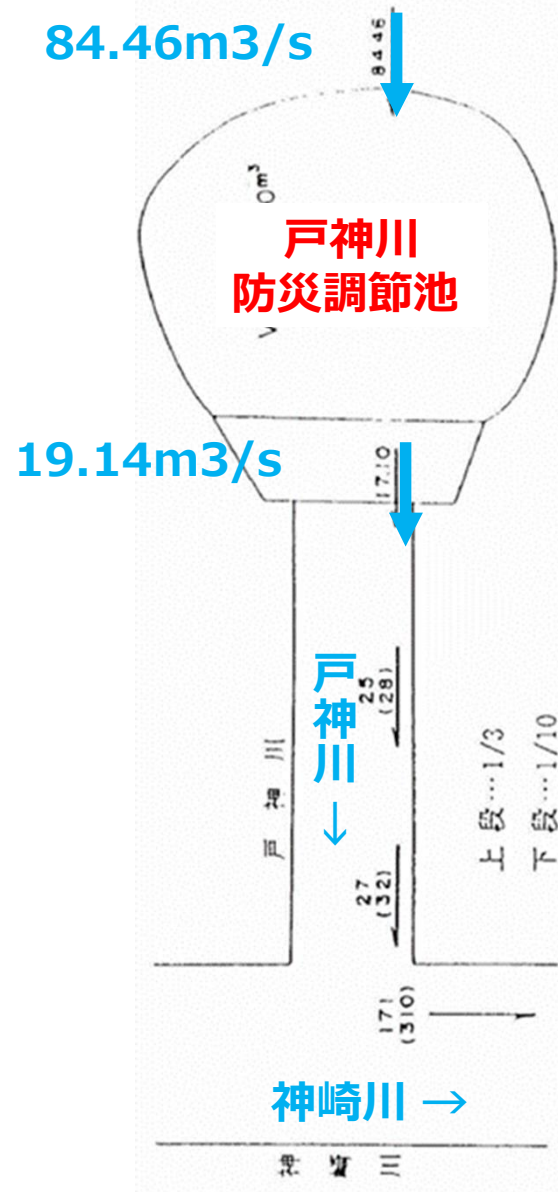
千葉ニュータウン
中央駅

戸神川
防災調節池



戸神川
防災調節池

- 戸神川防災調節池は、千葉ニュータウン事業による開発にあたって、1/30確率の降雨に対して、洪水調節を行う役割を持った重要な河川施設である。



-
- 県立北総花の丘公園 平面図**
- Bゾーン** 都市の景ゾーン
芝生広場 修景池
- Dゾーン** 道の景ゾーン
- Eゾーン** 緑の景ゾーン
陽たまりの広場 ついでにの広場 北総の丘 BBQガーデン 自然生態園
- Aゾーン** 水の景ゾーン
なかめのみ広場 サクサの広場 花の小広場
- Cゾーン** 水の景ゾーン
戸神川防災調節池 草はら広場 野鳥観察施設
- Cゾーン = 自然共生ゾーン**



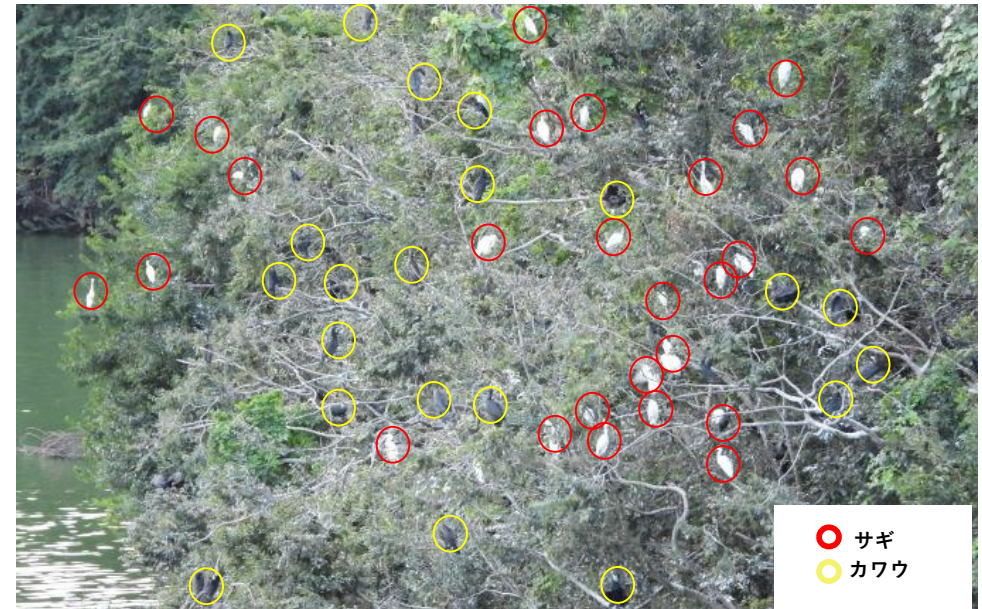
- 自然共生ゾーンとして位置づけられた戸神川防災調節池周辺において、近年カワウとサギが増加し、以下のとおり地元から強く**苦情・要望**が出るなど**社会問題**となっている。
 - 「なまぐさい臭いで一日中窓が開けられない…」
 - 「アレルギーで喘息になってしまった」
 - 「糞で洗濯物、車が毎日のように汚れる 」
- そこで、**人と自然が共生していくための対策**に取り組む必要が生じた。
本発表では、道半ばではあるが、**これまでの取組及び今後の展望**を紹介するものである。

令和6年3月4日 住宅対岸側から撮影

糞により樹木が枯死



糞害の様子



サギやカワウが数多く生息

- H24～R4にかけて約10年間においては、手探りの中、以下の取組を試行したが、計画性に欠けており、効果を得る事が出来なかった。
 - ・放水、威嚇音、リンロンテープ張り等による対策を試行
(鳥が嫌がらせに慣れてしまい、テープを張った箇所にも巣が設置されてしまう。)
 - ・令和元年より生息調査を開始したが、時期や方法などが適切とは言えなかった。
 - ・最終的なゴールやそこまでのプロセスを持っていなかった。



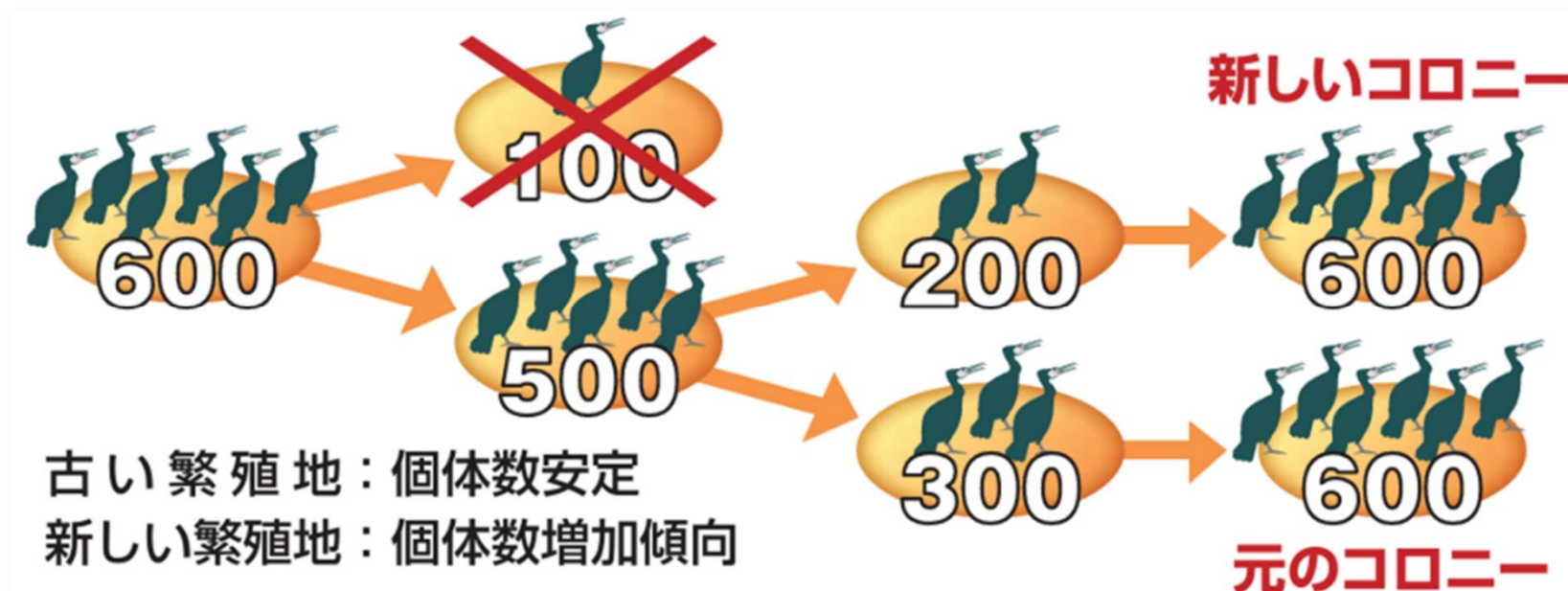
テープ張りの様子



爆竹による追い払いの様子

■ 対策の課題

- ・カワウは、全国的に対策が行われているところであるが、
無計画な追い払いは**他の地域に被害を拡散させる可能性がある**。
- ・サギ類は**レッドデータブック**に記載されており、**鳥獣保護法**で守られていることから、
コロニーが形成されてから追い払い対策を行うことが難しい。
- ・戸神川防災調節池は**市街地内**にあることに加え、**急勾配な地形**であるため、
猟師による駆除なども困難である。



カワウの駆除が被害を拡大するメカニズム

出典：カワウに立ち向かう（全国内水面漁業組合連合会）

調節池内の樹木伐採
ハード対策



継続的な生息調査と対策の検討
ソフト対策



**生活被害の深刻な箇所について、
早期改善と広域的な被害拡散を防止する。
さらに長期的な効果が持続する対策を検討する。**

■ 調節池内の樹木の部分伐採

メリット

- ・対策後に直ちに効果を感じられる
- ・見通しが良くなり周辺の個体数も減少する
- ・樹木の維持管理が楽になる

デメリット

- ・高額な費用が掛かる
- ・実施可能な範囲が限られる
- ・やりすぎると「公園」としての景観に影響



伐採前



伐採後

■ 継続的な生息調査と対策の検討

- ・専門家の助言を仰ぎ、カワウ、サギ類の生態や県内外の効果的な追い払い事例を学ぶ。
- ・被害が大きいエリアを優先に対応しながら他のエリアに拡散させないように、**ゾーニング（住み分け）**を行う。
- ・鳥類の生息数や分布、季節での変化や対策の効果を把握するため、継続的な生息調査を実施。
- ・自治会との意見交換会の場を通し、**地元の意見をふまえながら**対策の検討を行う。

01

専門家ヒアリングと
他の事例の
視察・意見交換

02

優先的な対策と
ゾーニング
(住み分け)

03

ドローンなどを
活用した
調査の実施

04

地元自治会
及び
関係機関との連携

■ 専門家ヒアリング

- ・実施計画の立案にあたり、カワウ、サギ類の各々専門家にヒアリングを行い、知見を整理。
- ・**カワウとサギは、繁殖期等の生態が異なる**ことを理解したうえで対策を実施。

■ 事例視察

- ・令和5年度関東カワウ広域協議会において、各県の調査結果や管理体制の事例を学ぶ。
- ・行徳湿地において、生息を許容するエリアへの誘引対策を視察。

- カワウ、サギ類は、一般的には、一年のうち、**繁殖期に集まってきて、繁殖が終わると巣から離れていく。**
- 糞や鳴き声は、**繁殖期に被害が大きくなる。**いったん繁殖（造巣）を始めると途中で止めさせることはほぼ無理なので、**造巣前、コロニーに飛来し始めた時期**を見計らって**集中して対策することが効果的・効率的**である。
- カワウとサギ類（ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ）の**生態は以下の点で異なる**ため、分けて対策を考える必要がある。サギ類では最初に**アオサギが2月末には巣を作り始める。**他のサギ類はアオサギに誘引されるので**アオサギ対策が肝心**である。

	カワウ	サギ類
繁殖時期	主に冬場（10月～3月）	主に春～夏場（2月～8月）
営巣範囲	水辺に面した樹木（水際を好む）	陸地側の樹木にも営巣する（水際は必須ではない）
保護対象	鳥類では唯一、鳥獣保護管理法に基づく第二種特定鳥獣保護管理計画の対象種（適切な個体群管理が必要な種）	チュウサギは準絶滅危惧種。コサギ、アマサギ、ゴイサギは全国的に個体数が減っている（保護対象）
鳥害対策への耐性	低い ※1	高い ※1
備考	相対的に臭いがキツイ	種類により生態異なる

※1 営巣個体数やコロニー継続年数の違いなどにもよるが、一般的に見られる鳥害対策耐性の傾向



令和5年度鳥害対策検討業務
ヒアリング結果

令和5年度関東カワウ広域協議会の様子
（行徳湿地における誘引対策視察）

■ 伐採箇所の選定

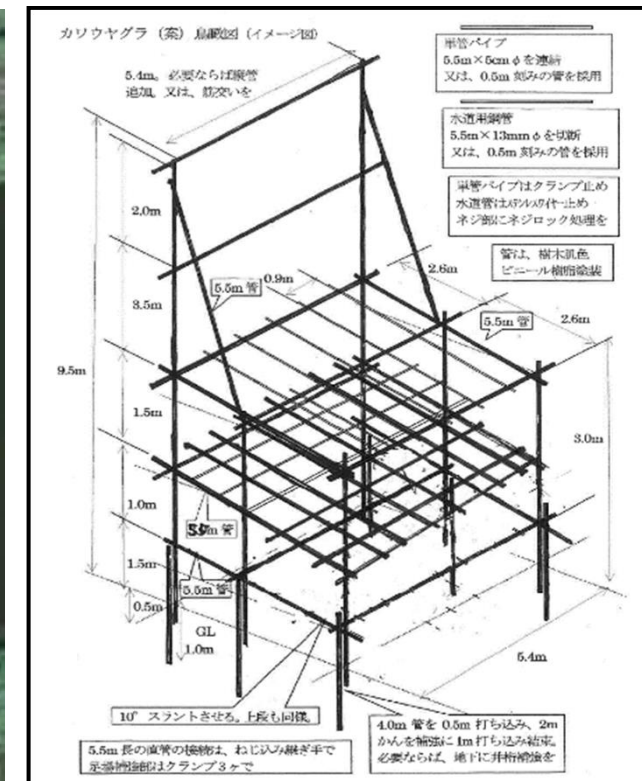
- ・最も近接し被害の著しい**戸建て住宅エリア**を優先に伐採を実施。
- ・生息調査結果を基に、カワウやサギ類が多く営巣している樹木を選定。

■ 誘引対策

- ・**対岸側**は対策を行わず、カワウやサギ類が住みやすい環境を維持する。
- ・行徳湿地における実績を参考に、ヤグラ等、誘引対策の検討を進める。



令和5年・6年度伐採箇所



カワウヤグラ 鳥瞰図 出典：自然ほごくらぶ

日中の調査

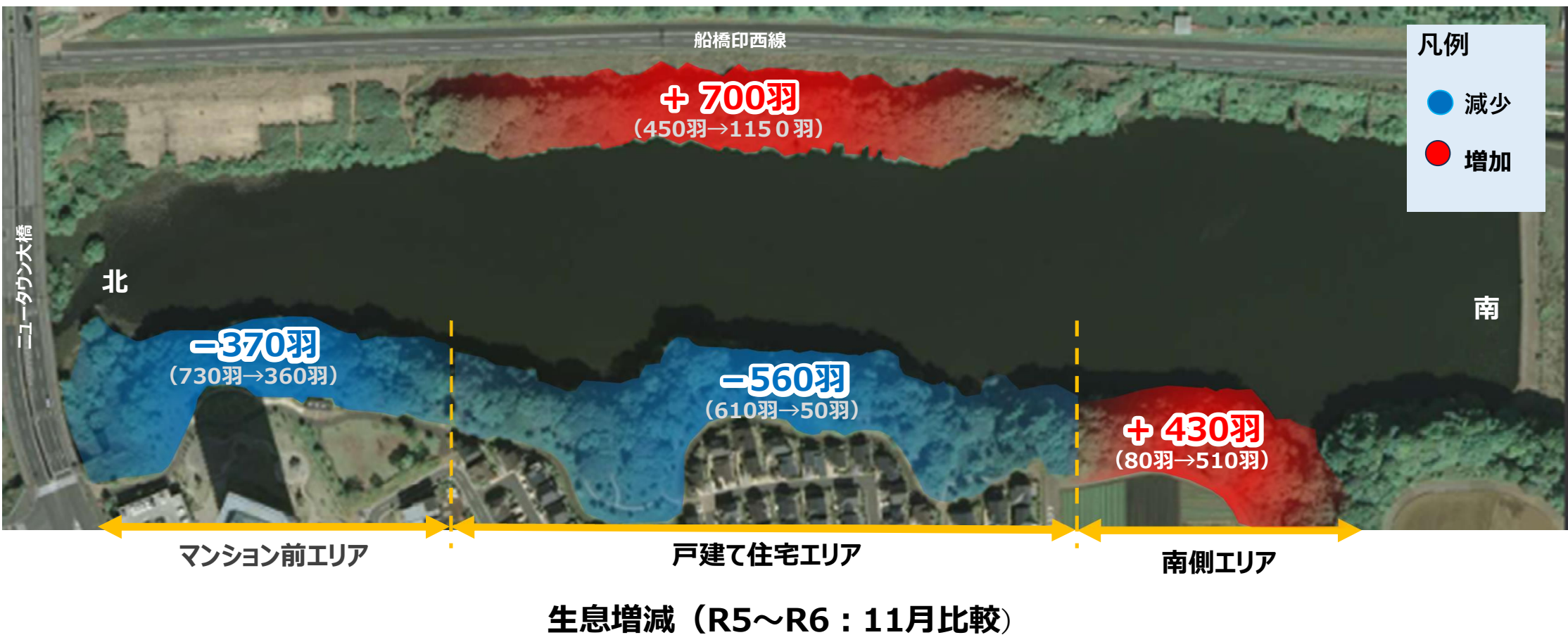


夜間の調査



- ・対策前（R5.11.24）と対策後（R6.11.25）に生息調査を実施
- ・全体で+200羽（対策前:1870羽→対策後:2070羽）と増加
- ・マンション前エリアでは-370羽、戸建て住宅エリアでは-560羽と減少
- ・南側エリアでは+430羽、住宅側対岸では+700羽と大きく増加

➡ 全体数は減少していないことから、戸建て住宅エリア等から他の地域に拡散はしておらず、住宅側対岸等に移動してきたと思われる。



定期的に地元自治会との意見交換の場を設置



地元自治会の意見を踏まえ、伐採箇所の選定、追い払い対策の実施



自治会との意見交換会の様子

竹（4 m）を使用し、
高所にあるカワウの巣を落とす

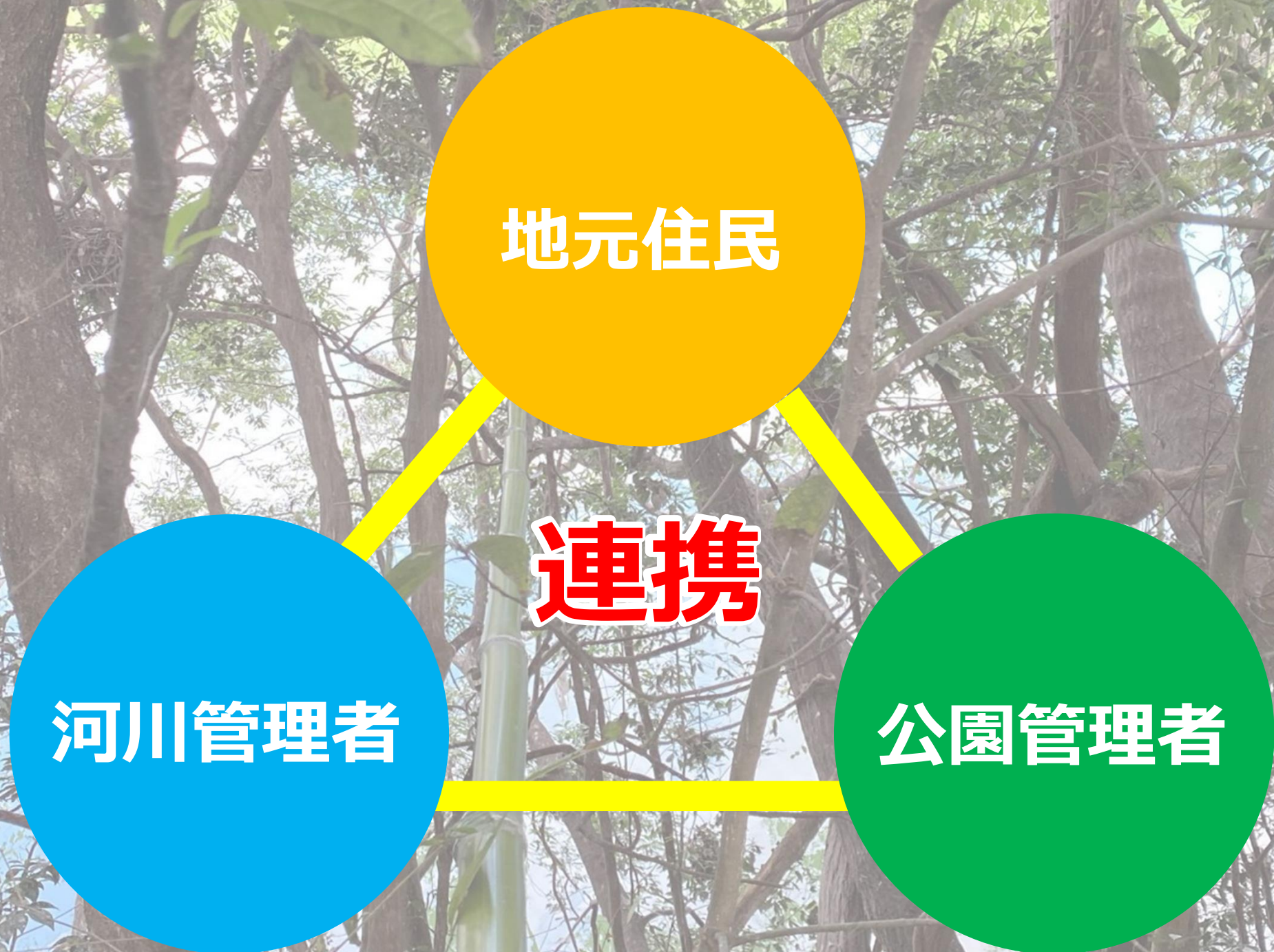
■作業内容 令和6年9月26日（木） 15：00～15：30

○南側エリア

巣まで届かないため、出来るだけ近づいて5～10分枝などをたたいて脅す
→ 鳥が驚いて飛び立つ
20分後に、再度、同じ作業を行う。

○マンション前エリア

巣落とし10個を実施

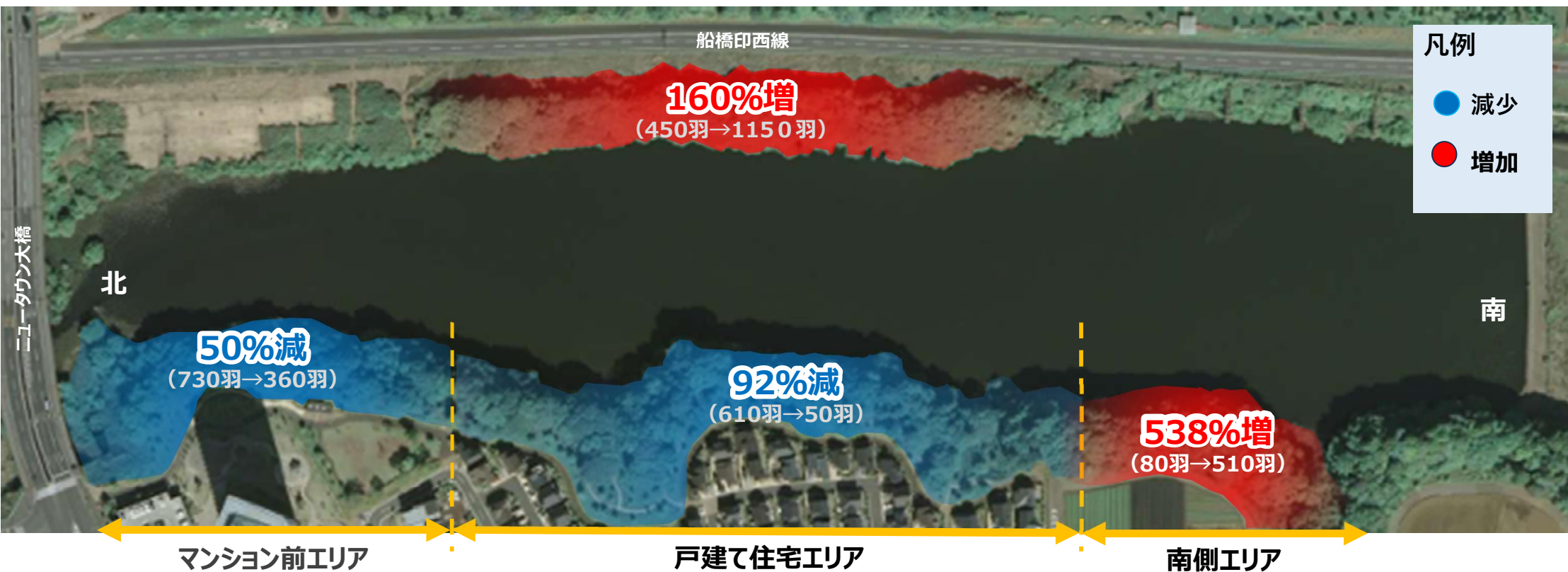


■取組の効果

- ・これまでの取組により、**戸建て住宅エリア、マンション前エリアの被害が低減**する一方で、**他地域への被害の拡散はしておらず**、現時点では、概ね狙い通りに進んでいる。
(ただし、**生息数が増加している南側エリアでは、新たな住宅開発が行われている**)

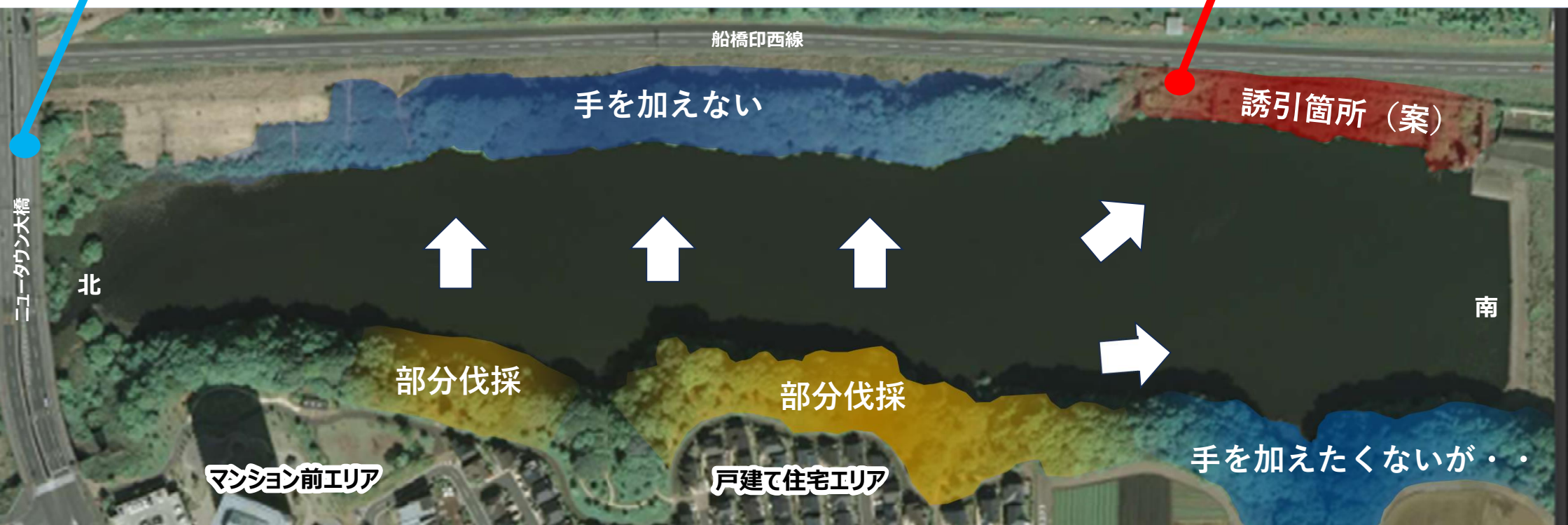
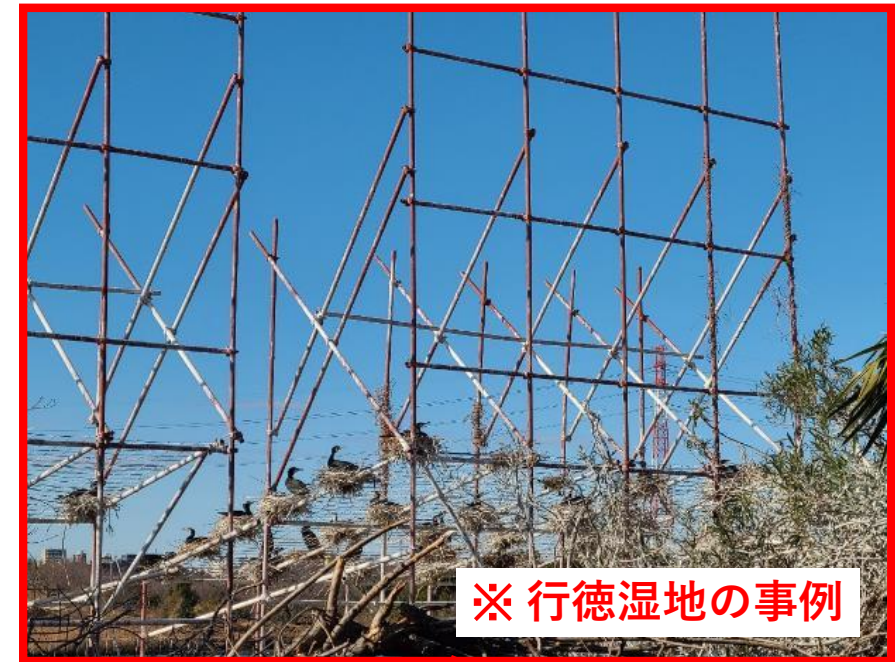
■今後の対策の課題

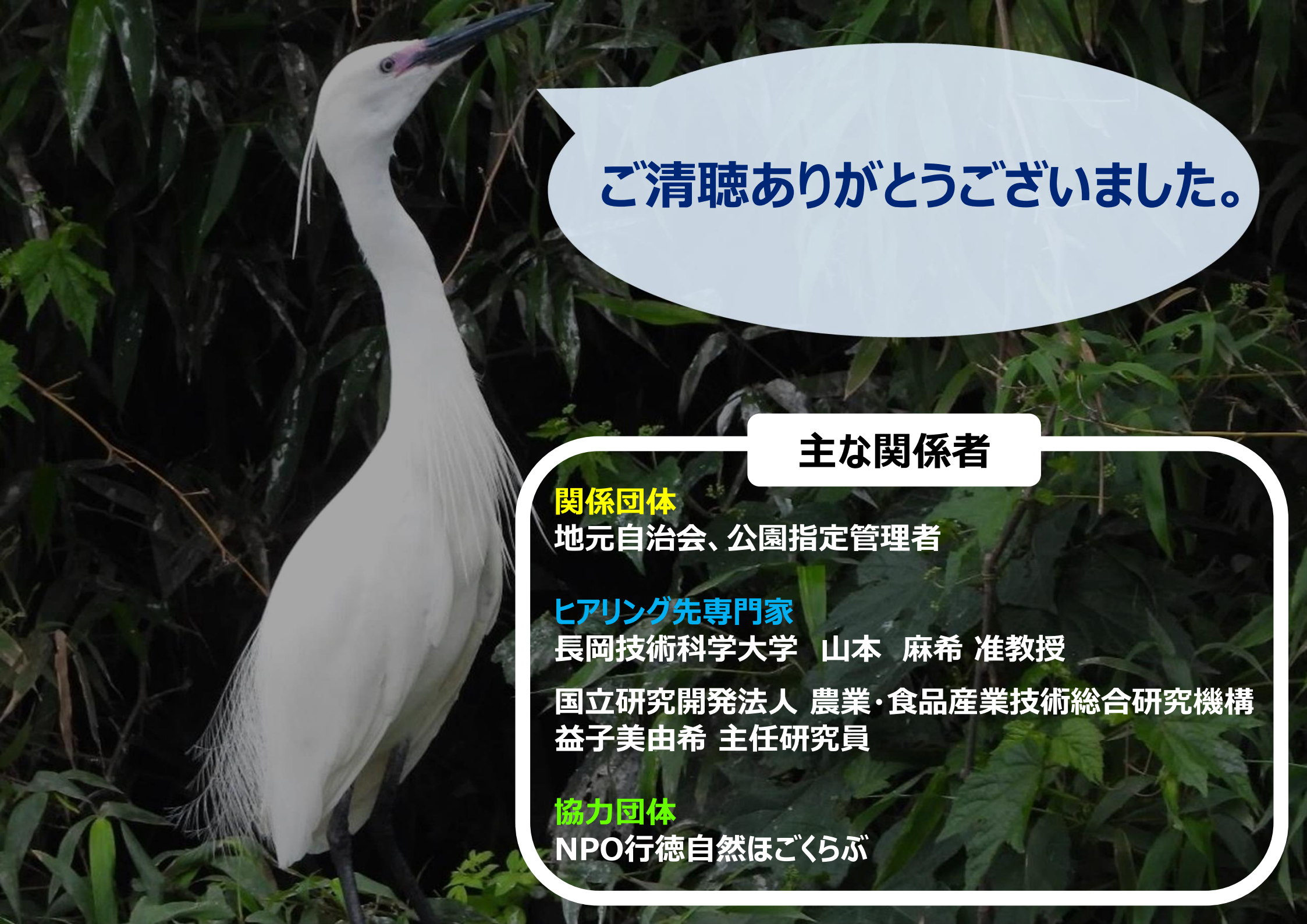
- ・マンション前エリアは、減少が半分程度にとどまっており、住民から更なる対策が求められている。
- ・南側エリアでは新たな住民から、**苦情や要望が今後生じる事が懸念される**。
- ・しかしながら、対岸側が既に相当程度増加しており、**今以上の受入れ容量があるか懸念**。



今後の取り組みの方向性と展望（案）

20





ご清聴ありがとうございました。

主な関係者

関係団体

地元自治会、公園指定管理者

ヒアリング先専門家

長岡技術科学大学 山本 麻希 准教授

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
益子美由希 主任研究員

協力団体

NPO行徳自然ほごくらぶ